

# 白馬杓池・天狗原 登山



登山隊長 杉本増生

楽しく 親しく たつぷりと

# まえほ通信

発行日	2013年11月1日
発行元	自立センター前穂 〒569-1022 高槻市日吉台 1番町21-18 072-689-8600



「白馬駅でおりると、正面まぢかに、うっすらと雪化粧した山々がつらなっている。白馬岳からえんえん鹿島槍ヶ岳まで、海拔三千メートル近い後立山連峰です。

「わあッ、すごいなあ・・・あの山の中腹まで登るんだよッ」

われら〈前穂〉登山隊、いっきよに登山気分満喫です。

時刻は、午前十時四十分。ふだんの日帰りガイドヘルプ（移動支援）なら、京都か神戸あたりを散策しはじめたところでしょう。さすがに二泊三日の登山プログラム・期待に胸がはずみます。

ゴンドラとロープウェイを乗り継いで、宿舎の杓池ヒュッテへ。昼食のあとは、明日の登山にむけて足慣らし、ヒュッテの前に広がる杓池自然園を散策です。

標高千九百メートルに展開する園内は、池あり、小川あり、丘陵あり、野生の熊にも運がよければ出あえるという、自然いっぱいです。

「杉本隊長と柴田隊員のぶんまでは、手がまわりませんでした。クマに出あつたら、よろしくウー」

何をおいても、ゲストさんの安全第一・・・いつもながら松原代表の目くぼり、心くぼりです。

一番金色に輝き、音色のいい鈴は、松原隊長の背中にさげられ、さあ、園内へ。

六人、わいわいがやがや散策し、休憩すると、めいめいのおやつを皆で分けあい、多いの少ないのと、これまたにぎやか・・・これでは、鈴がなくとも、熊にめぐりあえる運はなかつたことでした。

杓池ヒュッテに戻り、入浴と夕食。食卓中央にデンと置かれたおひつにむかつて、今日ばかりはおかわり自由です。健康保持のため食事療養中のゲストさんの満足げな笑顔。

翌日は、プログラムのハイライト、天狗ツ原への登山です。雲の層をぬけて登り着くと、広々とした草原のはじめ、秋晴の空のもと、白馬三山

いらい幾度も登った峰々をうつつとり眺め、松原代表は、皆にくぼる菓子類を岩の上でせつせと六等分し、柴田隊長は、草原にドツカとあぐらをかき、ガス焔炉に点火して飲みものをづくりに余念がない。三人のゲストさんたちは、写真を撮ったり、あつちへ行ったり、こつちへ来たり・・・めつたに味わえない雲上の憩いのんびり楽しんでいきます。

一時間後に杓池ヒュッテに下山して昼食ですが、ここは、おやき（信州名物野菜饅頭）ひとつですまし、ロープウェイ、ゴンドラと乗り継ぎ、山麓の宿舎へ。迎えのマイクロボスを下車したところは、広大な敷地に建つ、ホテル・シエラリゾート白馬・・・夕食は、本場フランスで修業したというシェフの丹精するフルコース。それで、お昼を、おやきひとつで辛抱したというわけですよ。

露天風呂につかり、瀟洒なレストランへおもむくと、シャンデリアの輝くもと、多数の宿泊客がテーブルに着いている。われら六人も、一卓をかこんで、美しい女性にお給仕されて食事です。

「ぎょうさんのフォークとナイフやなあ・・・いちいち切って食べてたら、

とくちサイズに切り分けてしまおか」

そうして、しめくりは、自家製ケーキとシャーベット。

ゲストさんそれぞれ、二時間たつぷりかけて、おいしくいただいたことでした。

日がかわり、朝食は、和洋食べ放題のバイキング。今日も、食事療法には目をつむり、満足げに口を動かすゲストさんも・・・。

以上で登山報告を終わりますが、最後にひとつ、気づいたことを・・・。

今回、二泊とも、二人部屋で、ゲストさんとスタッフが対になって二晩を過ごしました。これは、自立センター〈前穂〉の活動全体の中でも、めつたにあることではありません。二人の間が、二日間、一つ部屋で一晩を過ごす・・・ことばを充分にあやつれないゲストさんもおられますが、この時、互いのあいだに通いあう心持には、ふだんの〈前穂〉活動とはまた一味が違うものがあります。

題名を「楽しく 親しく たつぷりと・・・」としたゆえんです。前後のふたつは、説明するまでもないでしょう。では、来年も、縁あらば、皆さん

- 10月下旬に、二泊三日の行程で杓池への登山活動をさせて頂きました。
- ご要望を頂いたゲストは男性三人の方。(通年に渡り、登山訓練をして頂いております。また、個人装備も高山に耐える物を揃えて頂いております。)
- ガイドヘルパーは杉本パートナーと柴田パートナー、松原スタッフです。
- 宿泊を伴う移動支援活動のため、事前に障害福祉課に計画書も提出し、了解を頂いております。